

## 7 若手農業者と新規就農者確保を目指す

- 就農後一定期間経過した若手農業者との意見交換を通じ、今後の新規就農対策のあり方を検討するとともに、将来、新規就農者が地域農業の中核として維持発展していくことを目指す。

### ○ きっかけ

慢性的な後継者不足や担い手への農地集積が限界を迎える中、地域農業の維持に向けて新規就農者の活躍が期待される。新規就農者への支援として農業次世代人材投資資金により最長5年間給付を行ってきたものの、経営開始6年目以降の所得確保等の様々な課題が見受けられ、定着率も低調である。

以上のことを踏まえ、今後の新規就農支援のあり方と新規就農者が地域農業の中核として発展していく上で必要な支援を検討すべく、懇談会を開催した。



令和2年10月29日 福井市内での意見交換の様子

### ○ 取組の概要

福井市内において、農業次世代人材投資資金の交付実績がある農業者、国、県、市及び農業団体が一堂に会し、新規就農支援の充実と農業経営の維持発展に向け、農業者自身の経験に基づく就農時や営農継続に当たったの課題を共有したほか、今後必要となる支援について意見交換を行い情報共有を図った。

### ○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 新規就農では、農地の他に作業スペースやトイレ等の整備も必要であり、大きな初期投資が必要となるが、いきなり借入することは新規就農者にとってハードルが相当高い。
- ・ 確定申告で苦勞するため、就農時に税関係のアドバイスやノウハウを教わる機会があればよかった。
- ・ 人手確保が困難な状況を踏まえると、新規就農から一定期間経過した若手農業者にも里親として研修生の受入に協力してもらえれば幸い。雇用する側とされる側との相性も重要であり、農繁期に人を集めやすくするためには、普段から地域のネットワークを広げておくことも必要である。